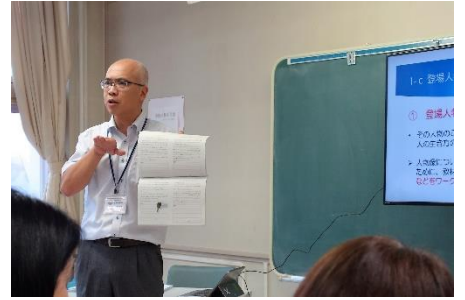


けんしゅうしましよ



教師力アップ研修を終えて

8月24日(金)、木原一彰先生をお招きして、5の1において「教師力アップ研修」を行いました。「自我関与」「生活に広げる終末」など校内研究に合わせた授業提案、講演をしていただきました。今年度、本校で目指す授業について、授業と理論の両面から考える機会となりました。



今後の道徳の授業づくりに向けて

1 登場人物の自我関与に関わって

◇木原氏「僕は、登場人物に自分の気持ちや経験を託して、登場人物に語らすものだと思っています！」

- 本日の授業であれば、「悔いがあったか、なかったか」を宮沢賢治に自分の思いをのせて語っている

◇木原氏「教材の外側発問“投影的(自分だったら～)、批判的発問(〇〇は本当に～していいの)を使えばいいと思っています！」

ただし、

【低学年においては】

- 教材に示された一定の条件のもとで、自分の気持ちや考えを確かめながら思いを主人公に重ねても十分な自我関与といえるのではないかな

【高学年においては】

内容項目に対する新たな発見を得るために、

①登場人物についての正しい理解が不可欠

- 事前学習で“引っかけり”をつくる(“宮沢賢治だからこそ”が言える)

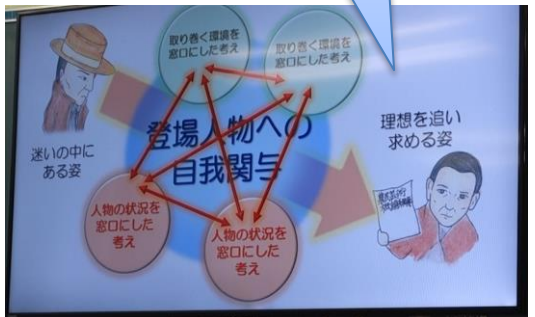
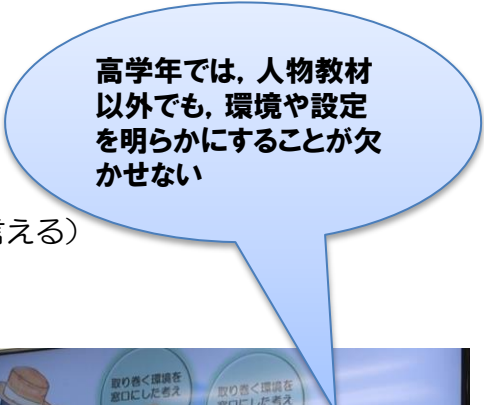
例) 宮沢賢治は、自分の人生に悔いがあったか？

②生き方・行為へ突き動かした思いに迫るために

例) ～できたのだろう。支えた思いに迫ろう。

③対話的な活動を仕組む

- これがあることで、多様な考えに触れることができる
- 自我関与を通じた共通解へ



2 教材からの学びを生活に広げる

◇教材や授業構成によって生活につなげるの意味を拡大解釈したほうがよい

①理想を追い求める発問（人の生き方を描いた教材）種をまく

例）自分のなりたい“そういうもの”って何ですか？

自分のあこがれる生き方って何ですか？

②現実と向き合って判断をうながす発問（現実に根ざす教材）花開く

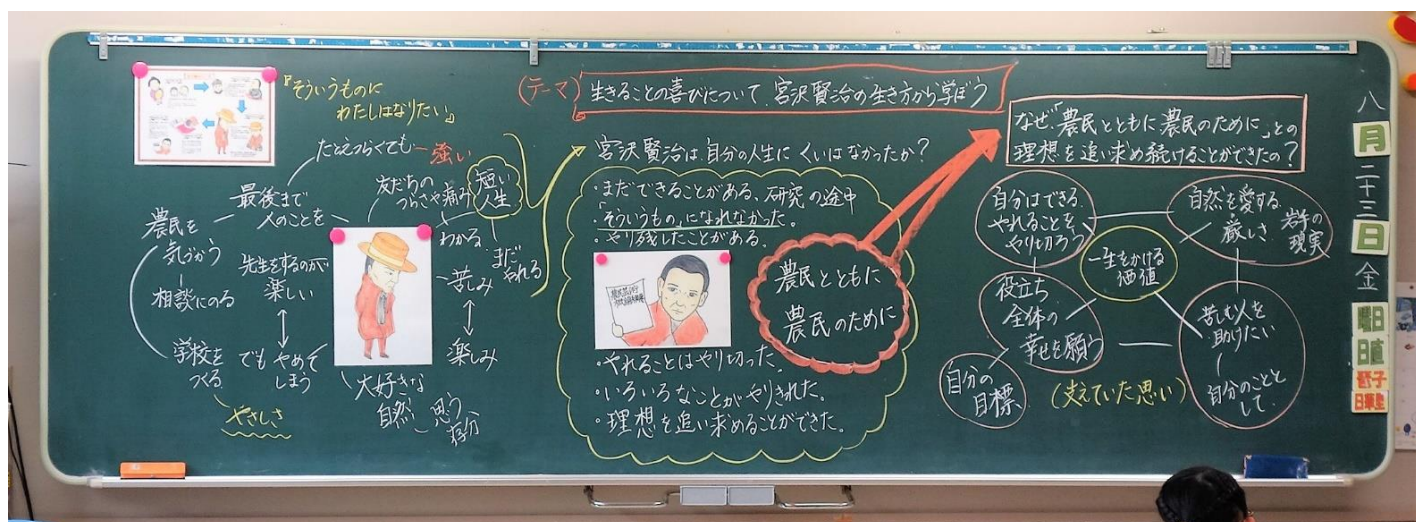
例）学芸会での器楽発表に向けて、どんながんばるパワーが必要だと思いますか？

③よりよい行為のあり方を求める発問 花開く

例）みんなが満足のいく学芸会になるために、どのような行動が求められるだろうか？

3 今後の研修に向けてのアドバイス

◇今年度の研修を大切にしながら、これまで4年間「問題解決的な学習」について研究してきた成果（技法・授業構成等）を取り入れることでさらに研究が充実していくのではないかな。



4 連絡

木原先生の授業、講演について記録した写真・映像が共有フォルダに入っています。

ご活用ください！

- ・肖像権などの問題から、研究会では授業中の動画・写真撮影が禁止されていることがほとんどです。書店でも授業DVDの取り扱いはほとんどなく、ネットで購入しようとしても非常に高価になっています。授業映像を見ると、書籍では伝わらない子供の反応や授業の雰囲気伝わってきます。ご活用いただければ幸いです。

6	カカヤ木原氏
7	総合単元ユニット
8	けんしゅうしましよ
9	講師を招聘した研修会（大和田氏・木原氏）
10	指導主事訪問
11	委員会等（外部）への提出書類
12	☆研究発表会関係（9月13日）

「H31年度共有データ」→

「2019 分掌関係」→「2019 研修部」